

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望＝ドル円は105円台を中心に一進一退の動きが継続か

[10月5日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)			9月28日～10月2日		
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	105.57	105.80(30)	104.94(2)	105.14	-0.44
ユーロ・ドル	1.1640	1.1770(1)	1.1615(28)	1.1731	+0.0100
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終 値		前週末比		
日経平均株価	23,029.90	-174.72	日本10年債利回り	0.022	+0.011
ダウ平均株価	27,816.90	+642.94	米10年債利回り	0.677	+0.023
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 5日 ユーロ圏8月小売売上高指数
米9月ISM非製造業景況指数
※中国は5～8日は国慶節のため休場。
- 6日 豪8月貿易収支
豪中銀(RBA)政策金利
独8月製造業受注指数
カナダ8月貿易収支
米8月貿易収支
- 7日 日本8月景気動向指数
独8月鉱工業生産指数
米MBA住宅ローン申請件数
カナダ9月Ivey購買部協会指数
米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(9月15・16日開催分)
- 8日 日本8月経常収支
スイス9月雇用統計
独8月貿易収支、独8月経常収支
米新規失業保険申請件数
- 9日 日本8月勤労者世帯家計調査
英8月鉱工業生産指数、英8月製造業生産指数、英8月貿易収支
カナダ9月雇用統計

【前回のレビュー】新型コロナウイルスの感染再拡大などが重石となり、ドル円は一時104.00円まで下落して、その後は値を戻した。ただ、リスク回避の動きが強まると、ドル買いよりも円買いに傾きやすくなる傾向が強いとみられ、104～105円台を中心とするもみ合いになるとした。

【米国の追加の経済対策期待が株価を支えるが先行きは不透明】

9月30日の米大統領候補者討論会で、共和党のトランプ米大統領と民主党のバイデン前副大統領がテレビ討論会を行った。政策に関する討論が期待されたものの、のしりあいの応酬に終始して、肝心の政策面での内容は乏しかった。郵便投票による集計の遅れなども懸念されており、大統領選後にすみやかに新大統領が決まるかどうかかわらないといった不透明感も漂う。

トランプ米大統領の就任後に米国株は上昇してきた。バイデン候補は富裕層や企業向けの増税を打ち出しており、株価には圧迫要因とみられている。世論調査ではバイデン候補の優勢が伝えられているものの、4年前のように実際に投票結果を見るまではわか

らない。こうした中、米国株は様々な材料に一喜一憂してもみ合いとなり、ドルも一方
向に動きにくい展開か。

米国で追加の経済対策成立への期待感は根強い。9月30日にはムニューシン米財務
長官とペロシ下院議長が追加の経済対策を巡って協議を行った。ムニューシン米財務長
官が協議には進展が見られたとの認識を示したが、合意には至らなかった。ただ、米株
式市場では合意に至るとの期待感が株価を支えている。その後も合意への期待は高まっ
ているものの、合意には至っていない。

ドルインデックスは9月中旬には93を挟んでもみ合いが続いたが、9月22日以
降にドル買いの動きから大きく上昇して25日には94.742まで上値を伸ばした。
ただ、ドルの買い戻しの動きも一服しており、93.50台まで軟化を見せた。ドル円
はドルインデックスの上昇場面では104円近辺から105円台後半まで上昇した。た
だ、米国株の堅調な動きから円売りの動きも加わり、上げが一服した後は105円台半
ばから後半で小幅な値動きとなっている。

米国株が上げるとリスク回避の動きが後退してドル売り円売りに傾き、米国株が下げ
ると逆にドル買い円買いに傾いて、ドル円は方向感が出にくくなっている。米国の追加
経済対策の協議の進展や米経済指標の動向を眺めながら、105円台を中心に一進一退
の動きが続くとみられる。104円を割り込むような円高にはなりにくいものの、10
6円台半ばを超えるような円安も期待しにくい展開とみられる。ドル円の目先の予想レ
ンジは、104.00～106.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、5日に米9月ISM非製造業景況指数、
6日に米8月貿易収支、7日に日本8月景気動向指数、米MBA住宅ローン申請件数、
米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（9月15・16日開催分）、8日に日本
8月経常収支、米新規失業保険申請件数、9日に日本8月勤労者世帯家計調査などがあ
る。

【ユーロドルはもみ合い推移か】

ドイツの駐欧州連合（EU）大使によると、EUの大型景気対策は加盟国の意見の不
一致から運用開始に遅れが生じると指摘している。EUによる景気対策には、7500
億ユーロのEU復興基金や1兆700億ユーロのEU共通予算などが含まれている。E
Uの大型景気対策の遅れが問題視されるようだと、ユーロドルには圧迫要因となる可能
性が出てくる。

ユーロドルは9月25日に1.1612近辺まで下落した後は戻り歩調に転じてい
る。このところのドルの買い戻しの動きが一巡していることなどが背景にあるとみられ
る。テクニカル面では一目均衡表の雲の中を堅調に推移している。21日線付近に差し
掛かっており、ここを上抜いてくると一段高が期待できる。もっとも同線が強い抵抗と
なる可能性もあり、あまり大幅な上昇は期待しにくい。こうした状況で、ユーロドルは
1.17ドル台を中心とするもみ合いが見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジ
は、1.1600～1.1850ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、5日にユーロ圏8月小売売上高指数、6日
に豪8月貿易収支、豪中銀（RBA）政策金利、独8月製造業受注指数、カナダ8月貿
易収支、7日に独8月鉱工業生産指数、カナダ9月IVEY購買部協会指数、8日にス
イス9月雇用統計、独8月貿易収支、独8月経常収支、9日に英8月鉱工業生産指数、
英8月製造業生産指数、英8月貿易収支、カナダ9月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。